

## 平成28年10月開催の三の丸ワークショップ

## 1 博物館に対する市民の意識（1日目）

- ・好意的なもの
  - 景観に恵まれている
- ・負のイメージ
  - 興味が無い「そもそも松本城とセット」「博物館といえば、というテーマがない」「松本城のおマケ」「魅力が不明」「いつでも行けると思うと…」
  - 暗い・古い「面白みがない」「明るさがない」
  - 内容がよくわからない「見せ方に工夫が無い」「見るだけ」
  - 市民の寄附品がしまわれたまま「展示物の入れ替えが少ない」「豊富な収蔵品をもっと見たい」
  - アピールができていない「地元の私が来訪者に説明できない」「地元住民の認識が薄い」
  - 学芸員に話したいと思っても館内にいない
  - 立地が活かされていない

## 2 「博物館だからこそできる」活動や展示・取組みアイデア（1日目）

- ・展示内容に関すること
  - 城・城下町（「城を中心にすれば、地理、城下町的生活・民俗・文化も展開できる」  
「三の丸の変遷」  
歴史  
自然（「水」、「山岳」）
- ・展示方法に関すること
  - 体験・触れる（「バーチャル体験」、「〇〇できる、〇〇してみる」「子どもたちが集まる体験イベント」「音や食を再現」、「五感」）  
特別な演出・工夫（「夜やる展示」、「博物館の暗さが宿命ならば、暗いなりの雰囲気づくり」、「展示物に関するエピソード」）
- ・活動や取組みに関すること
  - 街とつながる博物館（「街の中の建物の保存」）  
市民参加（「市民が説明できる」、「自由にみんなが使える」）  
見える博物館活動（「見える研究室・収蔵庫」、「グーグルアートプロジェクトへの参加」、「バックヤードツアー」、「情報発信」）  
連携（「美術館との連携」「他館への誘導」「イベントとの連携」）
- ・建物デザインや周辺環境に関すること
  - 土井尻に馴染む外観  
周辺の庭園につながる緑  
フリーアクセス

### 3 博物館での学びについて、何を、どのように学びたいか（2日目）

#### (1) 何を学びたいか

- ・歴史
    - 城下町の成り立ち
      - 近代・商都
      - 考古・古代
      - 宿場町
  - ・民俗・文化・芸術
    - 生活文化（「庶民の文化」「武士の生活、江戸の職人」、「ぼんぼん、青山様」、「松本だるま」）
      - 民俗（「伝説・民話・怪談」、「言い伝え」、「方言」）
      - 民芸・クラフト・ものづくり（「民芸家具の歴史」「押絵雛」「金継ぎ」）
      - 音楽
      - 食文化（「鰯」「塩イカ」「食虫文化」「日本酒」）
      - デザイン
      - 日本の伝統文化（「能」「茶道」「昔ながらの芸能・技術」）
  - ・自然・自然科学
    - 山岳
      - 湧水・井戸（「水脈を知り、自分がどの山に生かされているかを知る」）
      - 地理
  - ・映画・小説の舞台
- #### (2) 方法・仕掛けづくり
- ・体験型イベント（「観察会」「井戸水飲み比べ」「縄をなう」「学芸員を囲む井戸端会議」）
  - ・仕掛け・システムづくり（「江戸文化由来のリサイクルを実施→現代版松本銭の発行→現実社会で流通」、「子ども自由研究の課題提供や相談」、「ボタン一つで収蔵品が出てくる」、「情報をつなげる・マッチングする、「ミュージアムスクエア」」「古地図アプリ」）
  - ・人材育成（「名物学芸員」、「市民キュレーターの育成」、「ガイド・コンシェルジュ」）

### 4 まちなか博物館と周辺のまちづくり（3日目）

- ・博物館の位置付けに関すること
  - 街を楽しむ起点
    - まちとのつながり
- ・博物館の景観・デザインに関すること
  - 人を魅了する優れたデザイン
    - まちの顔
    - まちとつながる仕掛け（「いつの間にか博物館の中に入っていた」、「博物館1階は路地状に通り抜け」「どこも入口」）
    - 眺望・ビューポイント

- ・周辺の魅力を活かす
  - 街の様子（「大名町エリアの近代的雰囲気と土井尻エリアの暮らしに根差した雰囲気」）
  - 井戸利用
  - 城内（三の丸・大手門）の意識（「街中から天守が見える」「発掘成果をそのまま展示」）
  - 公共交通の見直し（「バスの乗降場設置」、「バス路線の見直し」）

## 5 今からできることを考える（4日目）

- ・人々が街から博物館に吸い込まれ、再び街に吐き出される
  - 人びとを吸い込む（「魅力的な建築」「立地の優位性を活かす、動線計画」「魅力あるテーマ」）
  - 人びとが吐き出される（「博物館から見える街の景色・山の景色」「街のインフォメーション」）
  - まちとつながる（「キュレーターの育成」、「博物館がつなぐ街歩き」）
- ・プログラム
  - 生きた資料の発掘とその情報の発信（たい焼きの道具やみそ造りの桶）
  - 里山の自然体験からクラフトにつなげる体験型講座
  - 遊び（子どもの遊び、大人の遊び）
  - 人気資料の把握
  - 学校との関係づくりやカリキュラムの構築
  - 博物館子ども相談室スタジオ
- ・情報発信・まちとの連携
  - 期待感・わくわく感を伝える。
  - 企画展のテーマを公募
  - 周辺住民との関係・環境づくり（「今から市民と、子どもと、一緒に何かをする」）
- ・環境づくり・ハード整備
  - 周辺環境の整備（「バス駐車場」、「土井尻内の電線類地中化」、「土手小路」「公衆トイレ」）